

「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」実践地域等一覧

番号	都道府県	実践地域等	学校名	実施教科等											主な実施内容		
				国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	家庭	総学	特活				
1	北海道	北海道	北海道札幌北高等学校 北海道函館北高等学校 北海道旭川東高等学校 北海道釧路湖陵高等学校	○	○	○	○	○									【研究課題1】 アクティブ・ラーニングの視点からの教科間連携の充実 — 教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの実践に基づく、特定教科、「総合的な学習の時間」、「課題研究」、「特別活動」等を核(コア)とした教科間連携の在り方の研究 — 【研究課題2】 思考力・判断力・表現力の育成を目的とした評価方法の工夫改善 — PISA調査、「学力学習状況調査(主にB問題)」等を参考とした定期考査の在り方の研究 —
2	秋田県	国立大学 法人秋田 大学	秋田大学教育文化学部附属小学校	○	○	○	○										「教科する」授業を通して 新たな価値を創造する力を育むアクティブ・ラーニング。 「新たな価値を生み出していく力」を育成すべき資質・能力の核として位置付け、他者と協働しながら各教科等の本質に迫る学習活動を通して、その育成を図る。 (1) 国語・社会・算数・理科の4教科に重点を置き、それぞれの教科の特性に応じた「自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程」を通して教科特有の資質・能力を高める学習・指導方法の在り方を示す (2) 教育課程全体で育成すべき資質・能力である「新たな価値を創造する力」を育むために、各教科等共通に重視すべき学習過程や指導方法を整理し、その在り方を示す
3	群馬県	群馬県	群馬県立吉井高等学校 群馬県立安中総合学園高等学校				○	○					○	○			拠点校と連携し、組織的な校内研修を充実させた、生徒が主体的・協働的に取り組めるアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の不断の改善を図るための調査研究を行い、その成果等を県内の公立高等学校等へ普及する。
4	埼玉県	戸田市	戸田市立戸田第一小学校 戸田市立戸田第二小学校 戸田市立喜沢小学校 戸田市立笹目東小学校 戸田市立戸田中学校 戸田市立笹目中学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市内18校<拠点校6校(小4校、中2校)及び協力校12校(小8校、中4校)>にて、アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善について、拠点校では、次の5つの視点を中心に取組を進める。 ・ねらいの明確化 ・課題設定の工夫 ・教材作成の工夫 ・児童生徒の実態の把握 ・児童生徒の変容の把握(評価)
5	静岡県	国立大学 法人静岡 大学	静岡大学教育学部附属浜松中学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21世紀を生き抜くために必要とされる資質・能力を育成するための学校全体のカリキュラムのモデルを提案する。この資質・能力が教科・領域横断的なものであることや、全人的なものであること、実社会において用いられるべきものであることなどの特質を踏まえ、各教科と総合的な学習の時間および特別活動を含めた学校全体での取組を重視するとともに、1年間や3年間といった中・長期的な視点に立ったカリキュラムモデルを提案する。特に教科カリキュラムは、アクティブ・ラーニングの視点から、教科の本質的な内容の深い理解を軸として編成し、そこに課題解決的な学習活動と協働的な学習活動、およびメタ認知を促進する自己評価活動を盛り込み、実践事例として提示する。
6	三重県	三重県	三重県立川越高等学校	○			○	○					○	○			アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の工夫・改善及び評価の在り方について以下の点を重視し、研究・開発を進める。 ・「生徒が判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べること」及び「生徒の自己肯定感や学習意欲、社会参画の意識等の向上」 ・「どのように学ぶか」という学びの質や深まり ・学習の成果として「どのような力が身についたか」に関する学習評価の在り方
7	京都市	京都市	京都市立梅小路小学校 京都市立向島小学校 京都市立向島藤の木小学校 京都市立下京中学校 京都市立向島東中学校	○		○	○						○				児童生徒が主体的に学び、思考・表現し、探究する力を育むため、アクティブ・ラーニングの視点から、知識構成型ジグソー法や思考ツールを用いた協働型授業への実践的な調査研究を行い、効果的な学習・指導方法の開発、優れた授業実践や校内研修等に取り組む。また、アクティブ・ラーニングの実効性を担保するため、教科横断的なカリキュラム・マネジメントの実践研究を通じて、学校の活性化と教職員の学校運営への参画意識の向上を図る。
8	山口県	山口県	防府市立牟礼小学校 防府市立牟礼南小学校 防府市立牟礼中学校	○	○	○											・継続的な課題解決に向けて、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善と小中連携による系統的な指導の工夫に取り組む。具体的には(1)年間2回の検証改善サイクルの質の向上(2)組織的な授業改善の活性化と個々の教員の授業力の向上(3)家庭・地域との連携促進を図っていく。 ・拠点校を3校指定し、1中2小学校が連携した研究体制を基盤として、上記の取組を検証改善しながら推進していく。 ・研究途中の段階から、実践研究により得た成果を県内全ての市町教育委員会と小中学校に公表する。
9	徳島県	徳島県	徳島県立川島中学校・高等学校	○	○	○	○						○				「①生徒の実態に応じた適切な言語活動による授業改善及び評価の設定、②中高一貫教育の特性を活かして学校全体で協働する指導体制の構築、③地域との連携による多様な学びの場における言語活動の実践」の3点について研究する。 拠点校においては、各種調査等により把握した生徒の実態を中・高で共有するとともに、中・高相互の授業見学、研究授業に対する合同協議や中・高合同の教科会を実施し、組織的・計画的に取り組む。また、拠点校を中心として、協力校5校及び県内5大学が連携して相互授業参観・意見交換・協議会等に取り組むことで、研究の実効性を高めるとともに県内全校への普及を図る。
10	香川県	国立大学 法人香川 大学	香川大学教育学部附属坂出中学校		○		○						○				「ものがたり」の定義(時間構造の中で、学んだことと経験を関係付け、新たな筋道を生み出し、意味や価値を実感しながら自己を形成していくこと)を踏まえ、個が響き合う共同体づくりを通して、学ぶ意欲を育み自己形成を促すカリキュラム開発に取り組む。具体的には、 ① 時間軸(過去⇄現在⇄未来)を意識させる中で、 ② 多様な(異なる)文脈(考えや経験や状況)をもった者同士が、 ③ 教科の本質を踏まえたことばでの語り合い ④ 題材に対する新たな気づきや実感を伴う深い理解のある授業を実践する。
11	大分県	中津市	中津市立山口小学校 中津市立東中津中学校	○		○							○	○			教科等の本質的な学びを通して、育成すべき資質・能力を育むために、学習者の学びをどのように変えていくか。 ・教科等の本質的な学びに通じる「本質的な問い」の設定 ・「深い学びの過程」「対話的な学びの過程」「主体的な学びの過程」の工夫 ・評価方法(パフォーマンス評価、ルーブリック、ポートフォリオ評価等)の工夫